

全星薬品工業株式会社

2022年度 環境経営レポート

対象期間：2022年4月~2023年3月
作成年月日：2023年7月19日
更新日：2023年10月30日



®環境省

エコアクション21

認証番号0001846



2018

優秀賞

環境活動レポート部門



2019

優良賞

環境経営レポート部門



2020

優良賞

環境経営レポート部門



基本理念・環境経営方針	1
組織の概要	2
事業所紹介	3
エコアクション21役割責任権限一覧表	4
環境管理責任者からのコメント	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～12
次年度環境経営目標設定書	13～16
過去5年間の実績	17
環境経営目標の設定とその実績	18
環境法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	19
社内におけるSDGs活動紹介	20～22
トピックス	23～24
エコ年表	25
総括～代表者による全体評価と見直し・指示の結果～	26

基本理念



まごころを込めて 健康をお届けします

私たちは、良質な医薬品の安定供給を最大の使命とし、人々の健康に貢献します。

その為に、品質・技術・生産性の向上や環境の変化に順応することで、皆さまに信頼され選ばれる企業を目指します。そして、人々が未来へと存続するために、環境保全が共通の重要課題であることを認識し、地球環境に優しいメーカーとして、目標を持って環境保全活動に努めてまいります。

環境経営方針



わが社は、次世代に住みよい地球環境を残すべく、以下の重点項目を中心とした環境負荷を適切に評価し、環境マネジメントシステムに基づく継続的改善に、全員参画を以って取り組みます。

なお、社会に浸透しつつある「SDGsへの取り組み」を追加し、持続可能な未来づくりを目指します。

- 1) 省エネルギー化の推進によるCO2排出量の削減。
- 2) 廃棄・排水量の削減およびリサイクル活動の推進。
- 3) 全社的なペーパーレス化推進による紙使用量の削減。
- 4) 化学物質等の適正管理、環境関連法規・その他要求事項の遵守。
- 5) 地域活性化として、植樹・緑化および近隣清掃活動の推進。
- 6) SDGsへの取組(環境・安全衛生・地域共生を中心とする)。

代表取締役社長

澤井俊哉

2007年 1月15日 (初版制定)
2022年 8月23日 (第6版制定日)

組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

全星薬品工業株式会社 代表取締役社長 澤井 俊哉

2. 所在地

<本社>

〒545-0051

大阪市阿倍野区旭町1丁目2番7号

あべのメディックス13階

<岸和田工場・研究所>

〒596-0808

大阪府岸和田市三田町380番地

<和泉工場>

〒594-1157

大阪府和泉市あゆみ野3丁目2番6号

3. 環境管理責任者

環境管理責任者：生産本部 副本部長 東尾 孝祐

4. 事業の内容

医薬品の開発と製造及び販売

5. 事業の規模（2022年度）

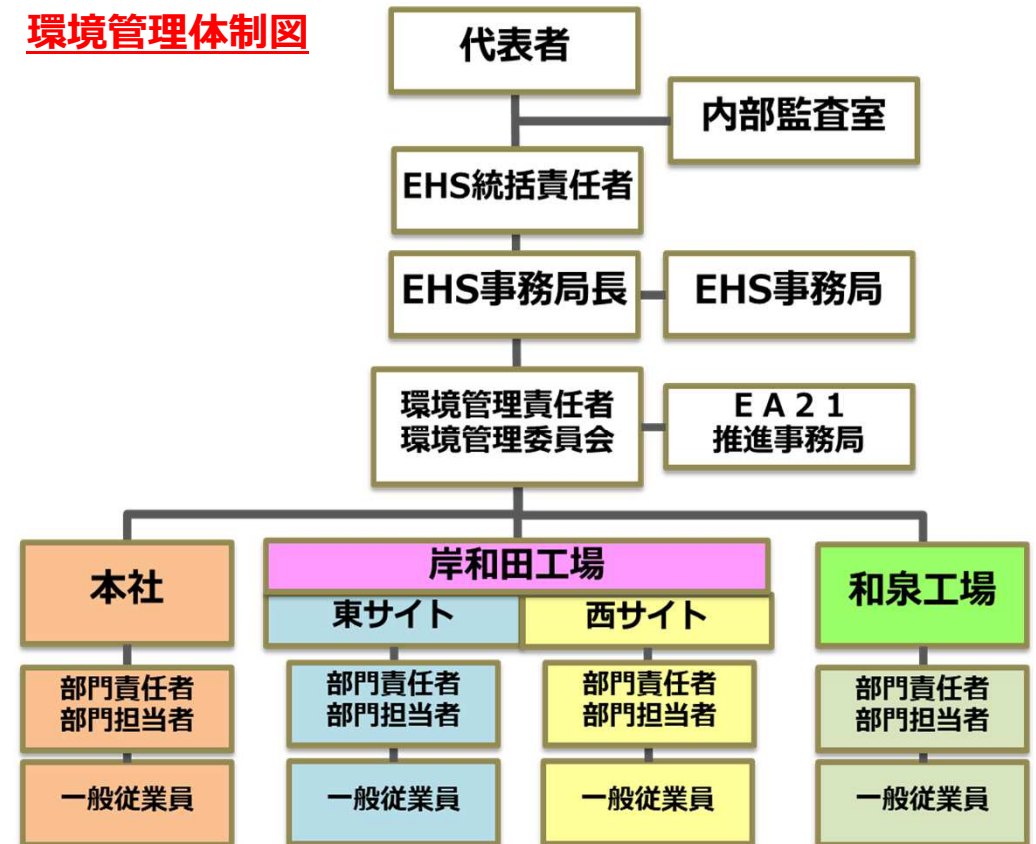
生産量・売上高：3,286,048千錠・21,208百万円

従業員数（派遣等含む）：837名（2023.3末時点）

6. 活動を行う対象組織

	本社	岸和田工場		和泉工場	合計
		東サイト	西サイト		
従業員数	66名	443名	121名	207名	837名
敷地面積 <small>※本社は延床面積</small>	881.52m ²	17,509m ²	4,386m ²	29,144m ²	51,921m ²

環境管理体制図



事業所紹介



本社



和泉工場



【生產品目】

経口固形製剤

【特 徴】

1Day1Lot生産ライン
昼夜自動無人設備
新機能設備

岸和田工場



【生產品目】

経口固形製剤

【特 徴】

独自の低コスト製造技術
少量多品種
昼夜自動無人設備

エコアクション21役割責任権限一覧表



対象	役割・権限・責任
代表者（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営方針、環境経営目標の承認 ・環境管理責任者及び内部環境監査責任者の任命 ・環境経営レポートの最終承認
内部監査室	<ul style="list-style-type: none"> ・E H S並びに環境経営に関する内部監査の計画・実施・報告
E H S統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・E H Sの運用に関する統括責任
E H S事務局長	<ul style="list-style-type: none"> ・E H Sの運用に関する管理責任
E H S事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・E H Sの運用に関するマネジメントシステムの運営
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・運用・維持 ・環境経営レポートの承認 ・環境経営目標及び環境経営計画の承認と達成状況及び実施状況の評価 ・代表者に運用状況や取組結果を報告 ・EA21活動報告の承認
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の実施状況確認・承認等 ・問題点の是正・予防処置の確認・承認等 ・その他EA21活動に関する事項の確認・承認等
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門の環境経営計画の承認と報告・対策、評価及び所属員に周知 ・自部門の問題点の発見と是正及び予防処置の実施・報告・対策 ・自部門の環境経営計画の承認と報告・対策、評価及び所属員に周知
部門担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門の環境負荷及び環境への取組の自己チェックの実施・報告 ・自部門の環境経営計画の策定と所属員への周知及び推進と実施状況の報告 ・自部門の文書・記録の管理と改廃
E A 2 1 推進事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・E A 2 1 推進（実施・運用）のとりまとめ ・環境管理委員会にてEA21活動の報告（4回／年） ・E H S事務局との連携 ・E A 2 1 推進における庶務等 ・エコニュースの発行 ・ポスター等の掲示
一般従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の役割と取組の実施 ・緊急事態訓練への参加・報告 ・E A 2 1 関連実務・報告 ・教育訓練への参加・報告

環境管理責任者からのコメント



★ 高品質医薬品の安定供給、環境負荷低減およびSDGs への取り組み

【エネルギー・環境負荷】

2022年度は生産数量・従業員数ともに2021年度を上回っており、それに比例してエネルギー使用量・廃棄物量・排水量が増加となりましたが、生産効率向上への取り組みもあり生産錠数あたりのエネルギー量は削減された結果となりました。これは従業員皆さんの日頃からの取り組みによる成果だと思います。

また2022年度より「カーボンニュートラル」に向けた活動として、和泉工場の電力を非化石電力へ変更したことで、CO2排出量は6746 t -CO₂と2021年度比で32%削減出来たことも大きな成果です。

	2021年度	2022年度	前年比
生産数量 (億錠)	30.1	32.8	109%
従業員数 (名)	745	837	112%

	2021年度	2022年度	前年比
エネルギー量 (KL)	6465	6657	103%
CO2排出量 (t -CO ₂)	9393	6734	72%
原単位 (KL/千万錠)	21.83	20.72	95%

2023年度は岸和田工場E棟が稼働したことでエネルギー量の増加が見込まれること、またエネルギーコストが高騰していることもあり、より一層の省エネ活動や効率化などが求められます。






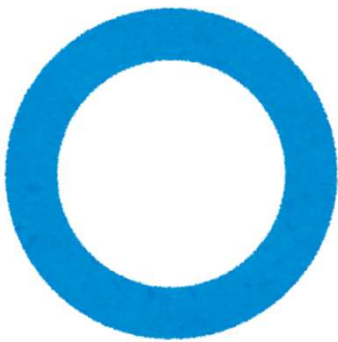
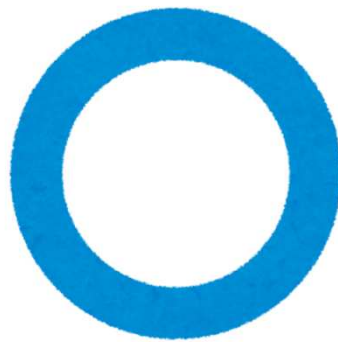


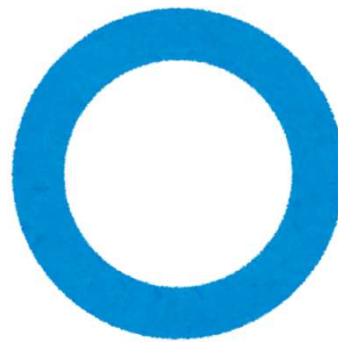
【SDGs への取り組み】

従来の寄付型自販機に有価廃棄物の対価も加えたことで昨年度より多くの寄付が可能となり社会貢献につながっております。また周辺美化活動の強化・献血活動の継続など従業員皆でSDGs を意識した働きが出来たと思います。

2023年度も引き続き、環境負荷低減への取り組みとSDGs への積極的な活動を推進しながら高品質な医薬品の安定供給に向けて従業員一丸となって取り組んでいきましょう！

全社の環境経営取り組み結果

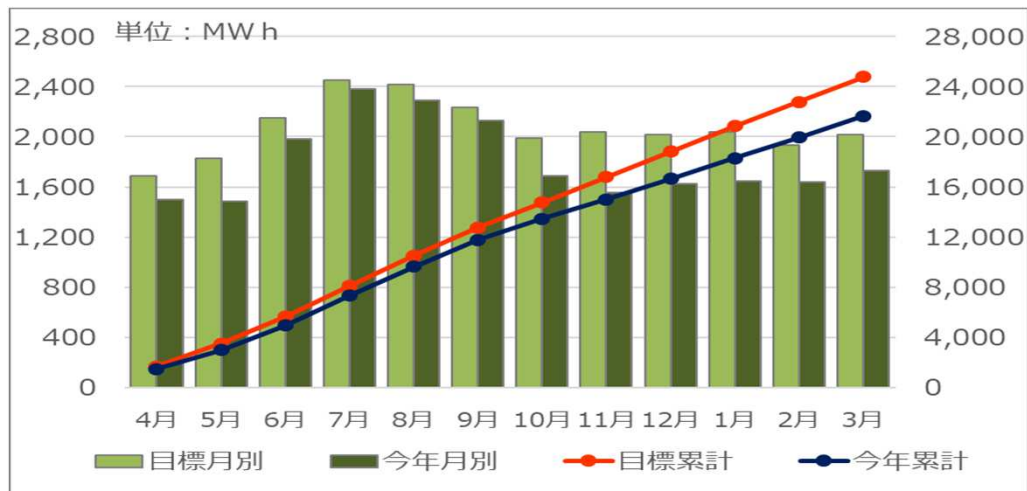


電力による 二酸化炭素排出量	燃料による 二酸化炭素排出量	一般廃棄物	産業廃棄物	排水量
				
				

電力による二酸化炭素排出量



年間排出量



目標 (t-CO ₂)	実績 (t-CO ₂)	目標比	評価
5,012	4,436	86%	○

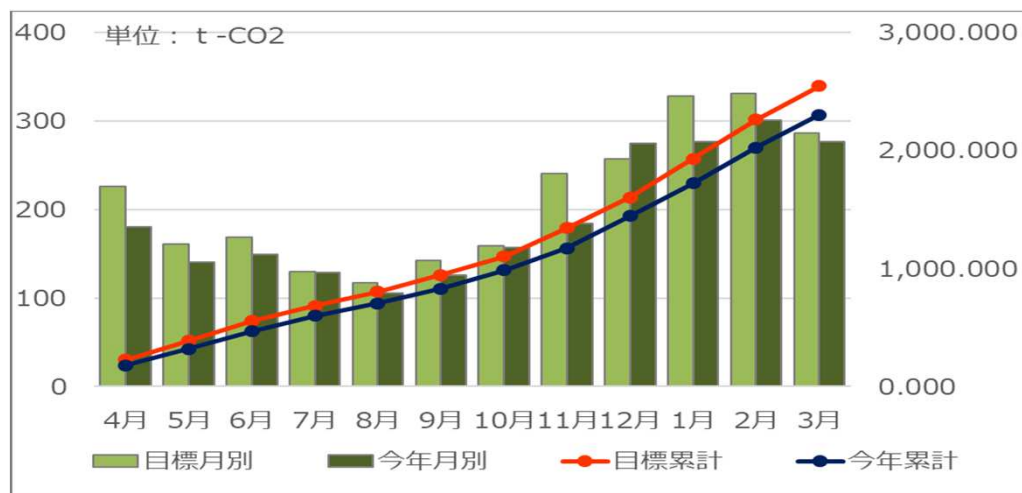
取り組み内容とその評価

	2022年度取り組み	目標 (t-CO ₂)	実績 (t-CO ₂)	目標比	評価
東サイト	①無人の部屋の照明はこまめに消す。 ②製剤A棟の照明をLED化する。 ③パソコンを使用しない時はスリープモードに移行する。	4,218	3,643	86%	○
西サイト	①みんチャレ活動によって無駄を排除し、作業効率をアップして生産性を向上させる。 ②両工場て協力してシフト生産を進め、休日出勤を抑制する。 ③OPのパトリ（検査カメラ）の調整スキルをOJTによって向上させ、ちょこ停を削減する。	757	756	100%	○
本社	①不使用時におけるこまめな電源OFF（照明、空調、PC等） ②空調使用時の適正温度の維持	36.4	37.0	102%	×
和泉	①設備の安定稼働及び効率稼働を図るため2工場間での要員配置を積極的に進める。 ②各事務所においては、冷暖房時のエコ運転設定及び昼休み・残業時に不要な照明の消灯を徹底する。	0	0	—	○

燃料による二酸化炭素排出量



年間排出量



目標 (t-CO ₂)	実績 (t-CO ₂)	目標比	評価
2,546	2,299	90%	○

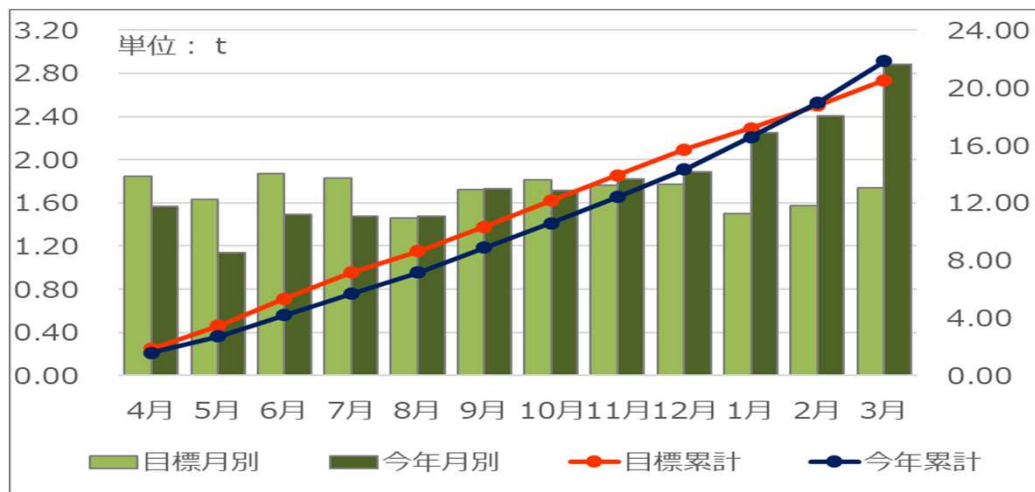
取り組み内容とその評価

	2022年度取り組み	目標 (t-CO ₂)	実績 (t-CO ₂)	目標比	評価
東サイト (西サイト分含む)	①大型連休の間はボイラーを停止し、都市ガスの使用量を削減する。	1,361	1,205	89%	○
本社	①TV会議、Teams等の利用の促進による社用車利用頻度の減少	1.85	2.34	126%	×
和泉	①2工場間での要員配置、シフト生産及び生産計画での調整により休日出勤の発生回数を最小限にする。 ②Teams会議を基本とし、社用車での岸和田移動については、可能な限り相乗りでの利用を行う。	1,183	1,091	92%	○

一般廃棄物排出量



年間排出量(焼却分)



目標 (t)	実績 (t)	目標比	評価
20.52	21.86	106%	×

取り組み内容とその評価

	2022年度取り組み	目標 (t)	実績 (t)	目標比	評価
東サイト	①新型コロナウイルス終息後、トイレのペーパータオルを廃止し、ジェットタオル化を図る。 ②電子記録の直接確認により紙の排出量を減らす（ペーパーレス化）。	9.35	10.83	116%	×
西サイト	①引き続き、GMP書類のERES推進によりペーパーレス化を進める。 ②引き続き、文書保管をデータ化し紙ベースの差換え保管を削減する。	2.50	2.47	99%	○
本社	①ペーパーレス化に向けて、資料の両面印刷の徹底。 ②会議用資料の電子化による使用を推奨。	0.145	0.211	145%	×
和泉	①品質管理システム（変更管理）の導入より紙の使用量減少を目指す。 ②指図発行時の資材払出数量を見直し、廃棄量を削減する。 ③製造指図・記録書及び試験記録の一部について、ペーパーレス化を推進する。	8.52	8.35	98%	○

産業廃棄物排出量



年間排出量



目標 (t)	実績 (t)	目標比	評価
525.20	562.32	107%	×

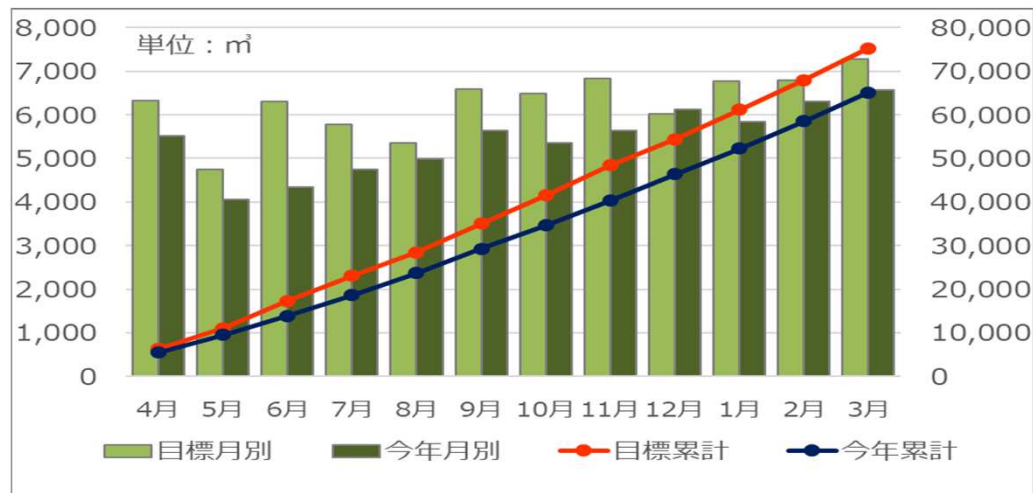
取り組み内容とその評価

	2022年度取り組み	目標 (t)	実績 (t)	目標比	評価
東サイト (西サイト分含む)	①品質改善により製品のロットアウトを削減する。 ②極力、有機溶媒を使用しない処方設計を推進し、実生産での廃液削減に貢献する。 ③コーティング液の調製量を見直し、廃液量を削減する。	383.00	421.61	110%	×
本社	-	-	-	-	-
和泉	①指図発行時の資材払出数量や作業手順の見直しにより、廃棄量を削減する。 ②設備保全の最適化・予備品確保により安定稼働を行い廃棄量を削減する。	142.20	140.71	99%	○

年間排水量



年間排水量



目標 (m³)	実績 (m³)	目標比	評価
75,270	65,163	87%	○

取り組み内容とその評価

	2022年度取り組み	目標 (m³)	実績 (m³)	目標比	評価
東サイト	①手洗いの水量を調整して水の出る量を抑える。	44,390	34,721	78%	○
西サイト	①新しい純水器の使用方法、ブロー設定について周知徹底し無駄な使用を防止する。 ②引き続き、準備/後始末/品替時間を短縮し、シフト生産を進めて残業時間・休日出勤を抑制する。 ③引き続き、生活水の使用を抑制するための啓蒙を実施する。	2,430	2,297	95%	○
本社	-	-	-	-	-
和泉	①生産計画との日程調整により洗浄回数を減らし使用量を削減する。 ②洗浄作業時、特に精製水の出しっぱなしが無いよう注意する。	28,450	28,144	99%	○



	今年度の取り組み目標	結果
ペーパーレス化の推進	ペーパーレス化のためのシステム化の実施	人事評価・目標管理やストレスチェック等、人事システムについてのデジタル化を導入し、ペーパーレス化に取り組んだ。また、新年度に向けてワークフローの導入検討および全社展開することで更なるペーパーレス化を目指す
化学物質の適正管理	ジクロロメタンの地下タンクの残量を毎朝夕確認、記録紙、漏洩が無いことを確認する	毎日在庫及び使用量を確認し、地下タンクより漏洩の無いことを確認している。また、廃液についても一般排水に流さないように廃液を別系統にし、業者に引き取りを依頼している
環境配慮品の開発	有機溶媒を用いない製造方法を採用した新規品目を開発する	シタグリプチン錠開発のスケールアップ検討においてFC工程を10%エタノール水のFC溶液から水100%のFC溶液に切り替えて検討しております

次年度環境経営目標設定書（2023年度）



岸和田工場 東サイト

項目	単位	2022年 実績値	2023年 目標値	2022年 実績比	目標設定理由/根拠
電気	kWh	10,063,411	11,123,300	111%	(前年度実績値に 新棟竣工に伴う増加を加味した値) - 1%
	t-CO ₂	3,643	3,325	91%	
燃料	都市ガス m ³	543,012	562,500	104%	(前年度実績値に 新棟竣工に伴う増加を加味した値) - 1%
	LPG kg	8,955	12,100	135%	(前年度実績値に 新棟竣工に伴う増加を加味した値) - 1%
	ガソリン L	1,940	1,900	98%	前年度実績値を維持 ±0% ※トラックの使用によるもののため、前年度実績値の維持で設定
	軽油 L	424	420	99%	前年度実績値を維持 ±0% ※トラックの使用によるもののため、前年度実績値の維持で設定
	t-CO ₂	1,204	1,256	104%	—
一般廃棄物	kg	10,830	12,860	119%	前年度実績値 + 新食堂食品廃棄物の予測発生量 ※生ごみ処理機導入前の期間のみ予測発生量を加味
産業廃棄物	kg	421,610	420,000	100%	前年度実績値 - (前年度発生した製剤の試験不適合品・異常逸脱の総量の約10%) ※異常逸脱にはニューマンエラーによるものも含む
水道	m ³	34,721	38,930	112%	(前年度実績値に生産数量の増加・ 新棟竣工に伴う増加を加味した値) - 1%

※電気はkWhの実績値から目標値を設定し、CO₂排出量は毎年発表される基礎排出係数を用いる

※目標値は四半期毎に見直しを行う

次年度環境経営目標設定書（2023年度）



岸和田工場 西サイト

項目	単位	2022年 実績値	2023年 目標値	2022年 実績比	目標設定理由/根拠
電気	kWh	2,087,761	2,066,880	99%	前年度実績値 - 1% ※前年度とほぼ同様の使用推移と想定
	t-CO ₂	756	748	99%	
一般廃棄物	kg	2,474	2,440	99%	前年度実績値 - 1% ※前年度とほぼ同様の使用推移と想定
水道	m ³	2,297	2,290	100%	前年度実績値 ※前年度とほぼ同様の使用推移と想定

本社

項目	単位	2022年 実績値	2023年 目標値	2022年 実績比	目標設定理由/根拠
電気	kWh	103,067	102,036	99%	前年度実績値 - 1% ※前年度とほぼ同様の使用推移と想定
	t-CO ₂	37	36	99%	
燃料	ガソリン L	1,009	730	85%	前年度実績値の50% + ハイブリット車への変更を反映した予測使用量 ※全車ハイブリット車へ変更
	t-CO ₂	2.34	1.69		
一般廃棄物	kg	211	211	100%	前年度実績値 ※前年度とほぼ同様の使用推移と想定

※電気はkWhの実績値から目標値を設定し、CO₂排出量は毎年発表される排出係数を用いる

※目標値は四半期毎に見直しを行う

次年度環境経営目標設定書（2023年度）



和泉工場

項目	単位	2022年 実績値	2023年 目標値	2022年 実績比	目標設定理由/根拠
電気	kWh	9,407,440	10,974,900	115%	(前年度実績値+実装範囲の増加を加味した値) - 1% ※和泉工場は再生エネルギー(非化石エネルギー)使用のため、CO ₂ 排出量は0
	t-CO ₂	0	0	—	
燃料	都市ガス m ³	492,675	554,000	112%	(前年度実績値+実装範囲の増加を加味した値) - 1%
	LPG kg	964	1,600	166%	前年度平均実績 × 12カ月
	ガソリン L	906	390	43%	部署移動後の平均実績 × 12カ月
	軽油	366	360	98%	前年度実績値を維持 ±0% ※トラックの使用によるもののため、前年度実績値の維持で設定
	t-CO ₂	1,091	1,197	110%	—
一般廃棄物	kg	6,260	7,410	89%	前年度実績値 + 新食堂食品廃棄物の予測発生量 ※生ごみ処理機導入前の期間のみ予測発生量を加味
産業廃棄物	kg	119,437	162,500	115%	(前年度実績値+生産数量の増加を加味した値) - 1%
水道	m ³	26,486	32,500	115%	(前年度実績値+生産数量の増加を加味した値) - 1%

※電気はkWhの実績値から目標値を設定し、CO₂排出量は毎年発表される排出係数を用いる

※目標値は四半期毎に見直しを行う

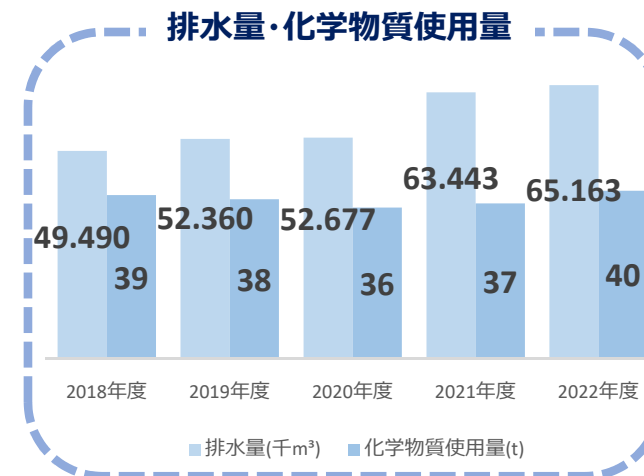
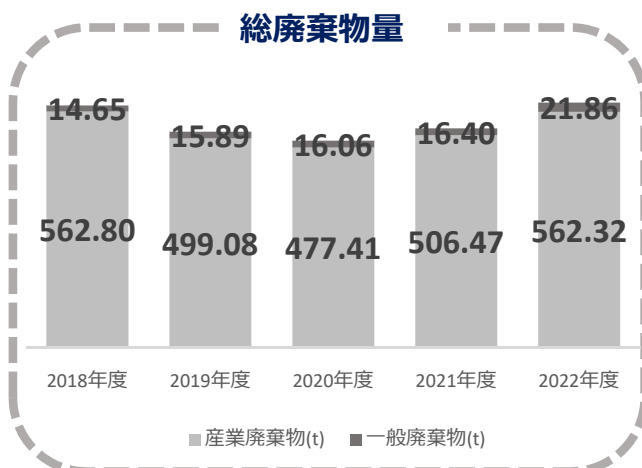


方針 No.	年間活動目標	達成手段
1	省エネルギー化の推進 エネルギー原単位の対前年比1%削減 またはエネルギー使用量1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 両工場の長期休暇時の設備停止（ボイラー・PAC・コンプレッサー等） 岸和田工場A棟の照明LED化 非製造時の空調抑制（E棟⇨和泉に展開予定）
2	一般廃棄物の廃棄量を抑制する （2022年度実績から20%削減）	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の分別によるリサイクル率アップ 生ゴミ処理機の導入による厨芥ゴミの削減
3	ペーパーレス化の推進活動	<ul style="list-style-type: none"> ワークフローシステムを推進し、紙使用量を削減
4	排水基準値の遵守（BOD・ジクロ）	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田工場の排水処理施設の改善 ヒューマンエラーによるジクロ排出の防止対策
5	周辺美化活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田工場・和泉工場ともに近くのバス停や公園など公共施設まで清掃範囲を広げる
6-1	寄付活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 寄付型自販機・有価物(紙・段ボール)の収益
6-2	献血活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 両工場1回/年の活動実施

過去5年間の実績



年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
期間		2018/4/1～2019/3/31	2019/4/1～2020/3/31	2020/4/1～2021/3/31	2021/4/1～2022/3/31	2022/4/1～2023/3/31	
売上高	億円	163	169	174	203	212	
従業員数	人	634	679	720	745	837	
生産数量	千万錠	281	304	269	301	328	
CO ₂ 排出量	総CO ₂ 排出量	t-CO ₂	11,534	11,984	12,074	9,393	6,734
	購入電力	t-CO ₂	9,661	9,903	9,985	7,068	4,436
	化石燃料	t-CO ₂	1,874	2,081	2,089	2,325	2,299
廃棄物量	総廃棄物量	t	577.45	514.97	493.47	522.87	584.16
	産業廃棄物	t	562.80	499.08	477.41	506.47	562.32
	一般廃棄物	t	14.65	15.89	16.06	16.40	21.86
排水量	千m ³	49.490	52.360	52.677	63.443	65.163	
化学物質使用量	t	39	38	36	37	40	



※1 購入電力の二酸化炭素排出係数(CO₂/kWh)は年度ごとの関西電力の基礎排出係数を使用しています。(2022年度は2020年度基礎排出係数0.362kg-CO₂/kWh)

※2 化石燃料の排出係数については、温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインVer.1.0を参照。

※3 一般廃棄物排出量は、焼却量を対象です。

環境経営目標の設定とその実績



項目	年度	単位	2021年度	2022年度		2023年度	2024年度
			(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
CO ₂ 排出量	総CO ₂ 排出量	t -CO ₂ /年	9,393	7,710	6,734	7,710	7,633
	電力	t -CO ₂ /年	7,068	5,011	4,436	5,011	4,961
	燃料	t -CO ₂ /年	2,325	2,699	2,299	2,699	2,672
前年度比		%	—	82%	71%	114%	99%
廃棄物量	総廃棄物量	t/年	522.87	545.72	584.16	545.72	540.26
	産業廃棄物	t/年	506.47	525.20	562.32	525.20	519.95
	一般廃棄物	t/年	16.40	20.52	21.86	20.52	20.31
前年度比		%	—	104%	111%	93%	99%
水・総排水量		m ³ /年	63,443	75,270	65,162	73,720	72,983
前年度比		%	—	118%	120%	119%	99%

- ※2022年度購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度の電気事業者別排出係数(関西電力)の基礎排出係数0.362kg-CO₂/kWhを使用
- ※2023年度、2024年度購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度の電気事業者別排出係数(関西電力)の基礎排出係数0.299kg-CO₂/kWhを使用
(和泉工場の非化石電力は除く)
- ※化石燃料の排出係数については、温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインVer. 1.0を使用
- ※一般廃棄物排出量は、焼却量を対象にしたもの。
- ※2024年度の目標は2023年度目標値から-1%で設定(ただし、2023年度の実績で目標値は見直す)



★主な環境関連法規等



環境関連法規への違反はありません。また、関係当局からの指摘及び訴訟も過去三年間ございません。
環境関連法規以外の要求事項(利害関係者)については新たに発生はありません。

<p>《エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律(省エネ法)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定事業者の指定 ・エネルギー管理統括者の選任 ・エネルギー管理企画推進者の選任 ・中長期計画書の提出 ・定期報告書の提出 ・第一種エネルギー管理指定工場の届出 ・第二種エネルギー管理指定工場の届出 ・エネルギー管理者の選任・解任 ・エネルギー管理員の船員・講習の受講 	<p>《フロン排出抑制法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロン使用機器一覧の管理 ・簡易点検の実施 ・法定点検の実施 ・フロン類使用機器の廃棄時の適正処理 	<p>《アルコール事業法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール使用許可申請 ・変更の許可 ・帳簿管理 ・使用業務報告
<p>《水質汚濁防止法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定施設の設置の届出 ・特定施設の構造等の変更の届出 ・排出水の排出の制限 ・事故時の届出 	<p>《廃棄物の処理及び清掃に関する法律》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の運搬・処分 ・特別管理産業廃棄物の運搬・処分 ・保管基準 ・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任 ・特別管理産業廃棄物の多量排出事業者 ・産業廃棄物管理票の交付 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書 ・処理困難通知 	<p>《労働安全衛生法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生に関する資格者の選任、体制の確立 ・作業主任者の選任 ・化学物質有害性の調査 ・定期健康診断の実施 ・心理的な負担の程度を把握するための検査等 ・SDS交付義務物質のリスクアセスメント ・化学物質規制に関する管理者、管理責任者の選任
<p>《大気汚染防止法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設置届 ・施設変更届 ・煤煙量等の測定 	<p>《毒劇物取締法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒物又は劇物の取扱 ・毒物又は劇物の表示 	<p>《有機溶剤中毒予防規則》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機溶剤作業主任者の選任 ・局所排気装置の定期自主検査 ・掲示 ・有機溶剤等の区分の表示 ・作業環境測定の実施 ・健康診断の実施、結果報告
<p>《下水道法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質測定、記録の保存 	<p>《消防法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災管理者の選任 ・防火・防災対象物の点検 ・自衛消防組織 ・危険物保安監督者の選任 ・定期点検 ・消防用設備等の設置、維持 ・危険物貯蔵施設の設置届 	<p>《特定化学物質障害予防規則》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定化学物質作業主任者の選任 ・局所排気装置の定期自主検査 ・掲示 ・作業環境測定の実施 ・健康診断の実施、結果報告 ・溶接ヒュームの健康障害防止措置
<p>《騒音規制法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置届出 ・数変更届出 	<p>《道路交通法施行規則》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全運転管理者の選任 ・運転者の運転前後のアルコールチェック 	<p>《グリーン購入法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り環境物品等を選択するよう努める
<p>《振動規制法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置届出 ・数変更届出 		
<p>《PRTR法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出量等の把握及び届出 		

※赤文字は今後施行予定の法令

社内におけるSDGs活動紹介



■各課の取り組み



環境活動及びSDGsに全員参画を以って活動するために、課ごとに業務と環境活動及びSDGsを結び付けた取組目標を立て、活動を実施しています。

エコアクション21 各課の取組 ～業務と環境活動の関連付け～			12 責任を 果たす
部署名	施設管理部 施設管理一課	所属人数 (施設、パートを含む)	11名
記入者	●●●		
主な業務内容	【平和田工場】 ●生産設備・治験薬設備・試験設備等の新規導入及び付帯工事 ●恒常的な安定稼働に向け、トラブル対応・定期点検・不具合に対する整備の実施 ●工程管理に関連する計器の定期校正 ●予防保全はもとより、改良保全・定期保全についても実施		
2022年度の取組目標	1. 添付文書電子化に向けた改進黨事対応及び切替部品点数の削減 2. 労災ゼロ・保全ゼロに向けた新規設備導入における標準化 3. 設備保全の最適化・予備品確保による停止時間・生産ロス削減 4. 設備保全管理システム導入による情報一元化およびペーパーレスへの将来構想		
2022年度の取組実績	1. 添付文書電子化に向けた改進黨事対応及び切替部品点数の削減 →施設管理部門の工事タスクは全て完了（2～13個/ラインあり、部品点数削減） 2. 労災ゼロ・保全ゼロに向けた新規設備導入における標準化 →安全・規格・電気標準の切替を制定し、PLI運用開始中 3. 設備保全の最適化・予備品確保による停止時間・生産ロス削減 →流動箱、F/C用特殊シンクタンク・VAISALA温度湿度計など長期用品のトラブル案件も予備品により長期生産停止回避 4. 設備保全管理システム導入による情報一元化およびペーパーレスへの将来構想 →システムの発注およびマスター登録に留意し、導入はNPネットワークの申請により未達		
環境方針との関連性	<input checked="" type="checkbox"/> (1) <input checked="" type="checkbox"/> (2) <input checked="" type="checkbox"/> (3) <input checked="" type="checkbox"/> (4) <input type="checkbox"/> (5) <input type="checkbox"/> (6)		
取組による効果	<input checked="" type="checkbox"/> コスト <input checked="" type="checkbox"/> 時間 <input checked="" type="checkbox"/> 廃棄物		
2023年度の取組目標 (SDGs関連No.12)	1. 設備保全管理システム導入および実運用によるペーパーレス化にて紙使用量の削減 2. トラブル発生時、居室から回書をプリントアウトして現場へ持ち込んでいたが、現場用の保全PCを導入することによりペーパーレス化にて紙使用量の削減 3. 蒸気ロスが原因で発生している部位について、「ねじ込み式」から「フランジ式」に変更することでリークロス軽減ならびにトラブル復旧時の時間短縮 4. 廃棄予定設備より、ジャンク品ではない主要な機器を部品取りし、不測の事態に備える ●ユース（買取）業者などを探査するなど資源を有効活用 →2022年度実績として、ローラーコンパクター1号を630,000円にて買取実績あり →カプセル充填機の粉末充填ユニット売却検討中 ●自社あるいは他社にて整備を行うことで、機能が復元されたものを再利用 →2022年度実績として、サーボモーター2台・タッチパネル1台を廃棄せずリビルドにて有効活用 2023年度も引き続き取り組んでいきます！		
備考 その他 (アピール)			

■社内教育「5S活動」



新入社員を対象に「5S活動」の社内教育を実施し、業務の効率化による品質の向上、働きやすい快適な職場環境を推進しています。また、5S活動を推進することにより環境活動にも貢献しています。

5S活動＝環境活動＝品質の向上
働き甲斐のある良き会社に！

5S活動 = 環境活動				効果の成果
5S	活動内容	目に見える効果	経営効果	効果の出る指標
整理	不要な物を処分する	ほしいものがすぐ見つかる	仕事の効率が良くなる	売上高
		物を動かす作業が減る		残業時間数
整頓	必要な物を誰でも一目でわかるようにする	発注ミスが減る	クレーム減少 → 信頼性の向上	生産数量
		無駄な動作が減る		事故率
清掃	隅々まで綺麗にする	在庫数がひと目でわかる	在庫の目利が良くなる	顧客数の増加
		過剰な在庫が減る		リード率
清潔	3Sを維持する	気持ちよく作業できる	社員のモチベーションが高まる	クレーム率
躰	良い習慣を身に付けルールを守る	会社に誇りを持つ		工程内不良率
				在庫回転数
				資本利益率
				在庫数
				不良在庫数
				作業時間短縮（省エネ）
				廃棄物削減（廃棄物削減）
				従業員満足度
				会社見学者数
				改善提案件数

社内におけるSDGs活動紹介



産業廃棄物のリサイクル活動



	廃棄物量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
一般産業廃棄物	343.57	272.81	79.4%
特別管理産業廃棄物	218.75	70.29	32.1%
総合計	562.32	343.1	61.0%

工場・研究所から排出される廃棄物は一般的な廃棄物から製薬工場特有の廃棄物があります。出来るだけ多くの廃棄物をリサイクルできるように処理業者の確認・選定を行っています。



産業廃棄物例



廃プラスチック類



汚泥

減容
別破
固砕

溶焼
融却

リサイクル例



再資源化



RPF化



焙焼炉路盤材再資源化



改良土

社内におけるSDGs活動紹介



■ 地域清掃活動

地域住民の方々とのコミュニケーション活動として工場周辺や近隣緑地公園などの地域清掃活動を定期的を実施



■ 募金・寄付活動

廃棄物リサイクル・自販機利用費の一部を寄付し国内災害救護や社会福祉施設、盲導犬育成などに利用していただいています。2022年度は合計513,078円の寄付を実施しました。



■ エコキャップ運動

2022年度のエコキャップ実績は約42kg(約18,060個)
CO2排出量削減量は132.3kg



■ 企業献血活動

工場での献血活動を定期的を実施
2022年度は計69名の従業員が献血しました。





★ 2022年の環境影響実績

■ 岸和田工場 新棟竣工

2022年11月に岸和田工場にE棟が竣工しました。
食堂の運営開始により、一般廃棄物の増加を認めましたが、
エネルギーの使用量については、目標設定値の範囲内となりました。

◆ 影響

- ・クリーンルームエリア拡充による電力・蒸気エネルギーの増加
- ・試験エリアの拡充による電力の増加
- ・食堂運営を調理型に変更することで一般廃棄物量の増加

- ・開発工事により減少した緑地の復旧



■ 和泉工場 再生可能エネルギー(非化石)電力の導入



2022年度から和泉工場で再生可能エネルギーによって発電された電力の購入を開始。
非化石電力の使用により、CO₂排出量の削減を図っています。

◆ 効果

- ・電力でのCO₂排出量ゼロ（和泉工場）

2022年度においては、約3,400 t -CO₂の排出削減しました。



★ 2023年の環境影響予測

■ 岸和田工場・和泉工場 生ごみ処理機の導入

食堂運営開始により発生する厨芥ゴミの削減として生ごみ処理機を導入予定です。

◆ 効果

生ごみ処理機使用により、一般廃棄物削減

目標：2022年度実績（厨芥ゴミ）から20%の削減

◆ 影響

・生ごみ処理機使用電力の増加



■ E棟治験薬エリアの稼働

2022年11月に竣工したE棟での治験薬エリアの稼働により高活性製剤の付着した廃棄物や廃液が発生や治験薬エリアの設備稼働により使用エネルギーの増加が見込まれる。

◆ 影響

- ・試験エリアの拡充による使用電力の増加
- ・治験製造による廃棄物、廃液の増加





★エコと共に歩んできた道のり

- 2007.2 第1回環境標語募集
- 2007.9 EA21認証登録
- 2012.6 エコニュース発刊開始
- 2012.8 第2回環境標語募集
- 2017.6 エコキャップ運動開始
- 2017.8 認証登録10周年継続企業表彰式
- 2017.10 エコ祭り（認証登録10周年記念イベント）
- 2018.2 第21回環境コミュニケーション大賞 優秀賞
- 2018.3 認証登録10周年記念樹(桜)
- 2018.7 第3回環境標語募集
- 2018.10 認証登録10周年継続企業研修会 講演
- 2019.2 第22回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2019.5 環境 人づくり企業大賞2018 奨励賞
- 2020.2 第23回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2020.10 自販機利用費の一部を用いた寄付活動開始
- 2021.5 創立70周年記念植樹(桜・柑橘類)
- 2022.4 和泉工場 非化石電力導入開始



創立70周年記念植樹



エコ祭り



エコキャップ運動



自販機利用費の一部を用いた寄付活動



環境コミュニケーション大賞



環境活動レポート部門 環境経営レポート部門 環境経営レポート部門



★総括

2022年度の当社を取り巻く業界環境は、一昨年から続くジェネリック医薬品の製品供給不足の状況下であり、信頼回復に向けた品質向上と安定供給への取り組みが業界を挙げて行われていました。当社においても供給不安の解消に寄与すべく増産対応が強られる中で、シフト勤務や休日出勤により対応しました。また、品質向上の取り組みとして、計画的な教育研修と定期的な巡視によるコンプライアンス意識の底上げと、システム活用による信頼性向上に努めて参りました。一方、2022年度は岸和田工場では新棟の竣工、和泉工場では非化石電力への切り替えと、各工場において環境負荷に対するプラスやマイナスの影響を与える大きな変化がありました。このような状況下で、全社的な環境管理目標では一般廃棄物・産業廃棄物が未達となりましたが、二酸化炭素排出量が対前年比で約30%の削減を達成しました。また、昨年度からの課題であった、各課の取組シートと各サイトの目標達成手段の連動による目標達成手段が示されたことが、成果に繋げることができました。



2023年度の事業環境は、引き続き信頼回復に向けた品質向上と安定供給への取り組みが求められています。また、ジェネリック医薬品の増産対応に加えて今年度は、大型新製品の製造を開始し工場の稼働が昨年よりも増加する計画となっています。環境経営方針の重点項目の中でも特に昨年未達であった廃棄物削減には積極的に検討してください。さらにSDGsへの取り組みについては、全員参画のもとで更なる拡大に取り組んでください。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり：-
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり：岸和田工場新棟の竣工によるエネルギー使用量の増加を見込んだ目標値の設定
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり：



完

そして、新たなる

エコの旅へ・・・

全星薬品工業株式会社